

# 気象衛星計画調査団報告書

## 概 要

1. 今回、NASA, NOAA, DOS, CNES, ESRO, WMO等を歴訪して、関係者と討議した結果を総合すると、GARPはわが国の参加があって、始めて成功するものと考えられており、わが国が、西太平洋に静止気象衛星を打ち上げるものとの前提に計画を進めている。

従って、わが国の参加を可能ならしめるためには、あらゆる協力、支援は、惜しまないとの態度であった。

2. (1) 米国の静止気象衛星に対する態度は、GARPへの参加、協力および国内気象観測網強化の面から、是非打ち上げなければならぬと考えられており、1973年末までにSMS-Aを、1974年春までに

SMS-Bを打ち上げることは、ほぼ  
間違いない。

(2) 欧州における静止気象衛星は、ESRO  
を中心に進められており、1976年末まで  
に打ち上げることに確信を持っている。

3 (1) わが国の静止気象衛星開発に対する  
米国の態度は、政府機関、メーカーとも、これを  
積極的に支援する体制にある。

(2) 欧州では、静止気象衛星のみならず、宇  
宙開発全般について、わが国との技術交流  
や、技術提携に積極的であった。

(3) VISSRの購入については、NASAは最  
大限の協力をしてくれることになっている。  
また、エンジン・マウ社のVISSRも充分  
考慮に価するものである。

4. わが国が、打ち上げを NASA に依頼する  
 場合、NASA は引き受ける用意があるが、  
 ソーテル 92914 型ロケットを米国より購入し、わ  
 が国で打ち上げるには、多くの問題が  
 ある。

5. 米国および ESKO にあける静止気象衛星  
 システムの所要経費は、次のとおりである。

	米 国	ESKO
衛 星	3,650 万ドル (110 億円) (注) 衛星 3 台、衛星搭載機 ・ VISSR を含む	6,200 万ドル (188 億円) (注) 衛星 2 台、衛星搭載機 ・ VISSR を含む
VISSR	900 万ドル (28 億円) (注) 2 台 衛星機を含む	1,000 万ドル (31 億円) (注) 2 台 衛星機を含む
衛星打ち上げ	800 万ドル (25 億円)	880 万ドル (27 億円)
地上施設	750 万ドル (22 億円) (注) 既設施設に付加	1,310 万ドル (40 億円) (注) 既設施設に付加